

# 甲虫ニュース

January, 1982

No. 55

## COLEOPTERISTS' NEWS

クロコガシラハネカクシとその近似種

柴田 泰利

クロコガシラハネカクシは G. LEWIS により 1870 年長崎県島原の砂浜から採集された標本に基づいて、1874 年、D. SHARP により *Philonthus japonicus* と命名記載された種である (*Trans. ent. Soc. Lond.*, 1874: 40)。成虫は春から秋まで、平地から山地にかけて塵芥下や腐敗した動植物質、特に動物の死体などに来集し、糖蜜トラップなどにも入る普通種である。

この種には互に外見が極めて良く似ていて同様の棲息場所から採集される *P. pseudojaponicus* BERNHAUER と *P. addendus* SHARP の 2 種が日本から記録されているが、クロコガシラハラカクシ以外の報告は少なく、僅かに *P. pseudojaponicus* については中根猛彦氏 (1963) の知床半島羅臼からの報文 (京都府立大学学術報告, 3 (5): 235)、沢田高平氏 (1965) の日本アルプス常念岳からの記録 (昆虫学評論, 18 (1): 15) 及び吉田正隆氏 (1971) による四国剣山での分布記録 (剣山県民の森総合学術報告書, p. 154) が有るだけで、*P. addendus* については中根猛彦氏 (1949) による新潟県での分布記録 (越佐昆虫同好会々報, 3 (3): 72) 以外にはない。加えて従来出版された図鑑類にはクロコガシラハネカクシ以外の上記 2 種は図示されていない。従ってこの種の同定には注意が必要である。そこで本小文ではこれら 3 種の区別点を紹介することにした。同好諸氏の何かのお役にでも立てば幸である。

クロコガシラハネカクシの所属するコガシラハネカクシ (*Philonthus*) 属は世界各地から多数の種類が報告され、日本だけでも 50 種を超える種を含むハネカクシ科最大の属である。日本産のこの属の本格的な研究は未だ行われておらず、新

種や未記録と思われる種も多く、同定には苦勞する属の 1 つである。この属の邦産種は従来 4 亜属に分けられていたが、*Gabrius* 亜属は属に昇格し、*Bisnius* 亜属は現在多くの学者によって *Philonthus* 亜属に含められている。一方新たに *Onycophilonthus* 亜属の種が記録された。また *Rabigus* 亜属を属として取扱う専門家もいるが、コガシラハネカクシ属は *Philonthus* 亜属、*Onycophilonthus* 亜属、*Rabigus* 亜属に分割されることが多い。この 3 亜属は小髯鬚の形態や前脚跗節末端節下面の黒色棘毛の有無などにより区別されるが、クロコガシラハネカクシは *Philonthus* 亜属に入る。*Onycophilonthus* 亜属にはクロコガシラハネカクシに良く似た *P. nakanei* SAWADA (体長 9-13mm) と *P. lederi* EPPELSHEIM (体長 9.5-11.5mm) がはいるが前者は北海道と本州に、後者は北海道だけに分布している。この両種とは前述の黒色棘毛により容易に識別は可能である (図 2-3)。*Rabigus* 亜属には唯 1 種 *P. brunnicollis* HOCHHUTH (体長 5.5mm 内外) ホソチャバネコガシラハネカクシが知られているが、クロコガシラハネカクシとは体長や色彩などで区別は容易である。*Philonthus* 亜属は前背板の点刻列の数により 7-8 のグループに分けることもある。

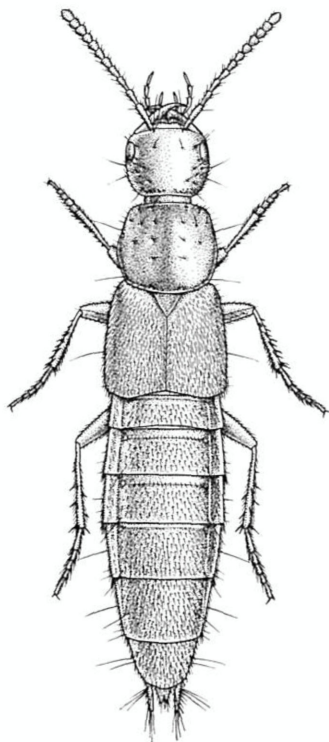


図 1 *Philonthus (Philonthus) pseudojaponicus* BERNHAUER ♂ (日光丸沼産)。

クロコガシラハネカクシ種群の特徴

点刻列を 4 個もつグループの日本産既知種は 14 種あるが本群の 3 種は

下記の特徴の組合せにより区別できる。

1. 前背板中央両側の点刻列は 4 個の点刻から成る (図 4)。
2. 体全体はやや光沢のある黒色だが、翅鞘には

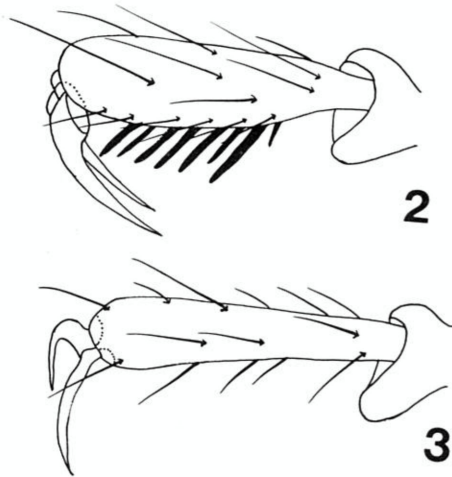


図 2-3 前脚跗節末端節: 2. *Philonthus (Onycophilonthus) nakanei* SAWADA; 3. *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP.

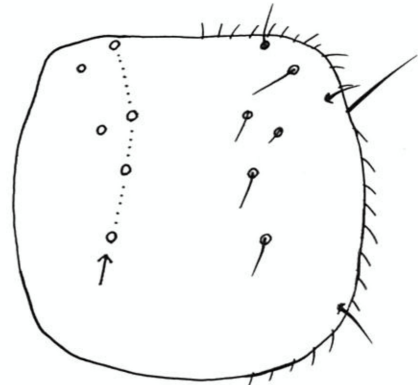


図 4 *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP の前背板.

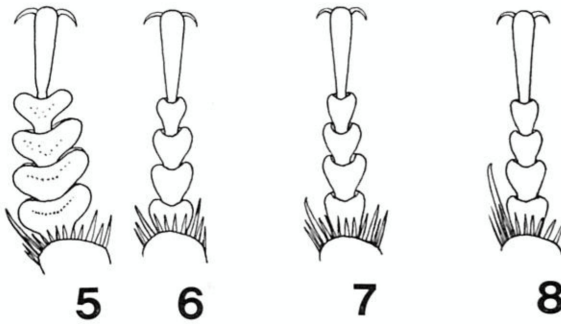


図 5-8 前脚跗節: 5. *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP, ♂; 6. 同, ♀; 7. *P. (P.) pseudojaponicus* BERNHAUER, ♂; 8. *P. (P.) addendus* SHARP, ♂.

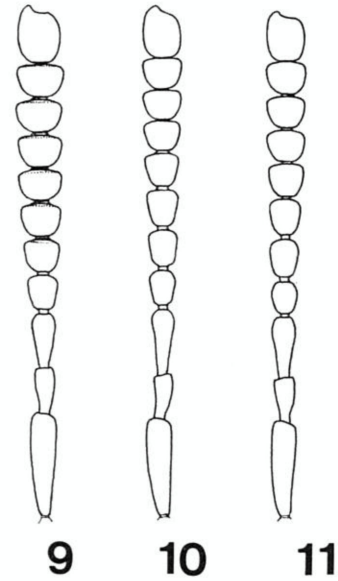


図 9-11 触角: 9. *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP; 10. *P. (P.) pseudojaponicus* BERNHAUER; 11. *P. (P.) addendus* SHARP.

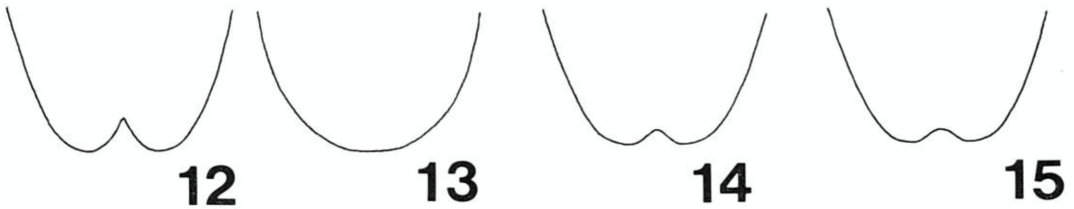


図 12-15 腹部末端節腹板: 12. *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP, ♂; 13. 同, ♀; 14. *P. (P.) pseudojaponicus* BERNHAUER, ♂; 15. *P. (P.) addendus* SHARP, ♂.

金銅色の光沢がある。

3. コガシラハネカクシ属の中でも 10-12 mm と比較的大型の種である。

なお、前背板の点刻列は通常前縁に近い(後方のものとは離れている)ものも入れて数えるので4個

の点刻列を1+3と表現することもある。

クロコガシラハネカクシ種群の種の検索表

1 (2) 触角の末端から2節目は強い横広(1.7-1.8:1)(図9)。♂前脚跗節は前方に向かって強く拡張する(図5)。♂腹部末端節

- 腹板の後縁中央の三角形の切れ込みは深い (図12) .....  
 .....*P. (P.) japonicus* SHARP クロコ  
 ガシラハネカクシ
- 2 (1) 触角の末端から2節目はわずかに横広  
 (1.3-1.4:1) (図10-11)。♂前脚跗節は  
 あまり拡張しない (図7-8)。♂腹部末  
 端節腹板の後縁中央の三角形の切れ込み  
 は浅い (図14-15)。
- 3 (4) 腹部の点刻は強く、より明瞭。♂交尾器  
 の中葉 (median lobe) は腹面からみ  
 ると先端部は直線状に狭まり (図19)；側  
 葉 (style) 裏面の黒色突起は片側が12  
 個前後から成り、平行に後方にのびる  
 (図20) .....  
 .....*P. (P.) pseudojaponicus* BERNHAUER

- 4 (3) 腹部の点刻は細かい。♂交尾器の中葉は  
 腹面からみると先端部は丸く (図22)；  
 側葉裏面の黒色突起は片側が5個前後か  
 ら成り、先端部にかたまる (図23).....*P.*  
*(P.) addendus* SHARP

クロコガシラハネカクシ種群の♂, ♀は腹部末端  
 節の切れ込みの有る (♂, 図12), 無い (♀, 図13)  
 により区別ができる。*P. (P.) pseudojaponicus* と  
*P. (P.) addendus* の外部形態は極めて酷似してい  
 る腹部の点刻以外には触角中間節の構造, 前脚跗節  
 の拡張の度合いなど差は極めて僅かで, 比較のため  
 の標本が無いと両者 (特に♀) を分けることは難し  
 い。♂の場合は交尾器で識別は容易である。

- 1 *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP,  
 1874 クロコガシラハネカクシ  
 模式産地: 長崎。

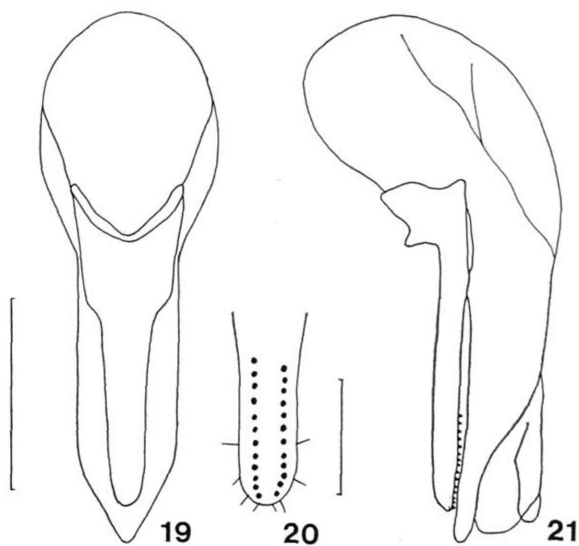
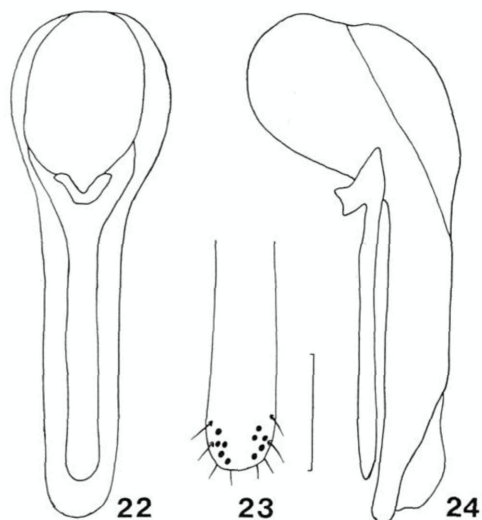
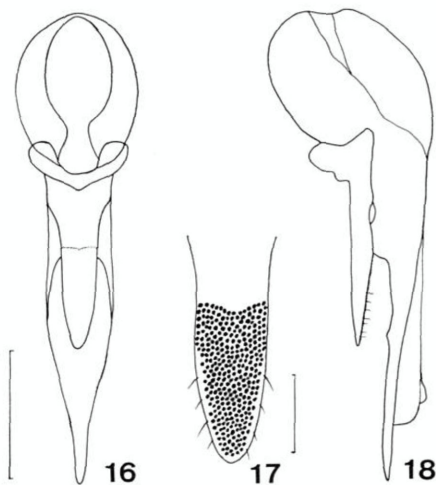


図 16-18 *Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP  
 の♂交尾器: 16. 腹面; 17. 側葉裏面先端  
 部; 18. 側面 (東京都世田谷産, 短いスケ  
 ールは 0.2 mm で 17 に適用, 長いスケール  
 は 0.5 mm で 16, 18 に適用)。

図 19-21 *Philonthus (Philonthus) pseudojaponicus*  
 BERNHAUER の♂交尾器: 19. 腹面; 20. 側  
 葉裏面先端部; 21. 側面 (日光丸沼産, 短  
 いスケールは 0.5 mm で 20 に適用, 長いス  
 ケールは 0.5 mm で 19, 21 に適用)。

図 22-24 *Philonthus (Philonthus) addendus* SHARP  
 の♂交尾器: 22. 腹面; 23. 側葉裏面先端  
 部; 24. 側面 (北海道黒岳産, 短いスケ  
 ールは 0.2 mm で 23 に適用, 長いスケールは  
 0.5 mm で 22, 24 に適用)。

検視標本: 93 頭 (43 ♀♀, 50 ♀♀)。

北海道: 利尻島鷺泊 (1 ♂), 知床 (1 ♀), 厚岸 (3 ♂♂, 2 ♀♀), 旭川 (1 ♀), オロフレ山 (1 ♂, 2 ♀♀), 虎杖浜 (3 ♀♀), 藻岩 (1 ♀); 青森県: 葛温泉 (1 ♀), 奥入瀬 (2 ♀♀); 山形県: 温海 (1 ♂); 群馬県: 三国峠 (1 ♂), 法師温泉 (1 ♀), 二度上 (1 ♂); 埼玉県: 田島ヶ原 (1 ♀); 千葉県: 松戸 (1 ♂); 東京都: 世田谷 (16 ♂♂; 17 ♀♀); 町田市鶴川 (3 ♂♂), 高尾山 (1 ♀); 日原 (1 ♂); 神奈川県: 真鶴 (1 ♂), 箱根 (1 ♀), 箱根駒ヶ岳 (1 ♀); 山梨県: 大菩薩 (4 ♂♂; 1 ♀), 増富 (1 ♀), 野呂川 (1 ♀); 長野県: 蓼科 (1 ♀), 乗鞍鈴蘭小屋 (1 ♂, 2 ♀♀); 静岡県: 熱海 (1 ♀); 三重県: 平倉 (1 ♀); 滋賀県: 伊吹 (1 ♂, 2 ♀♀); 鳥取県: 猪子 (1 ♂; 1 ♀); 岡山県: 倉敷 (1 ♀); 徳島県: 剣山 (4 ♂♂, 1 ♀); 高知県: 黒尊 (1 ♂); 大分県: 祖母山 (1 ♀); 宮崎県: 高千穂 (1 ♂)。

分布: 日本 (南千島<sup>1)</sup>, 北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島<sup>2)</sup>; 朝鮮<sup>3)</sup>, 樺太, 東シベリア。

本種はクロコガシラハネカクシ種群のなかでも顕著な特徴をもち他の2種との区別は容易である。北海道から九州まで広く分布し, 平地から山地まで棲息している。東京周辺ではクロコガシラハネカクシは平地に産し, *pseudojaponicus* は奥多摩まで行かなければ見られない。南千島をはじめ外国での分布記録は近似種との関係もあるので再検討をする必要がある。

北海道 (層雲峡, 幌加, 斜里岳) には本種やヨーロッパに分布する *P. politus* LINNÉ に良く似る未発表の別種を産し, 台湾にも近縁の別種がいるが, ♂交尾器により区別できる。

## 2 *Philonthus (Philonthus) pseudojaponicus* BERNHAUER, 1936

模式産地: 上高地, 根室。

検視標本: 140 頭 (73 ♂♂, 67 ♀♀)。

北海道: 礼文島香深 (1 ♀), 利尻島鷺泊 (1 ♂), 利尻島姫沼 (5 ♂♂, 3 ♀♀), 知床 (5 ♂♂, 6 ♀♀), 知床岩宇別 (1 ♀), 羅臼 (6 ♂♂, 6 ♀♀), 厚岸 (1 ♂), 層雲峡 (2 ♂♂), 上川ニセイチャロマップ (1 ♂), 上川エチャナンケップ (4 ♀♀), 上川上越 (1 ♂), 上川越路 (1 ♀), 戸齋別 (1 ♀), 虎杖浜 (2 ♂♂), 円山 (1 ♂), 定山溪 (1 ♀); 青森県: 谷地温泉 (3 ♂♂), 葛温泉 (3 ♀♀); 秋田県: 大覚野峠 (1 ♂, 1 ♀); 岩手県: 早池峰山 (1 ♀); 山形県: 温身平 (3 ♂♂, 3 ♀♀); 栃木県: 日光湯元 (1 ♂, 2 ♀♀), 戦場ヶ原 (1 ♂, 1 ♀), 金精峠 (1 ♂, 2 ♀♀); 群馬県: 丸沼 (13 ♂♂, 12 ♀♀), 浅間 (1 ♀), 霧積 (2 ♂♂), 二度上 (1 ♂); 東京都: 日原 (1 ♀), 小川谷 (3 ♂♂), 海沢 (1 ♂), センスイ谷 (1 ♀), 御岳 (4 ♂♂, 2 ♀♀); 山梨県: 大菩薩峠 (1 ♂, 1 ♀), 大菩薩日川林道 (1 ♂, 1 ♀), 増穂町 (4 ♀♀), 御座石 (1 ♂), 大樺沢 (1 ♂, 1 ♀), 富

士 (1 ♀); 長野県: 美ヶ原 (2 ♂♂, 1 ♀), 入笠 (2 ♂♂), 菅平 (1 ♀), 中房 (3 ♂♂, 1 ♀), 白骨温泉 (1 ♀), 島々谷 (1 ♂), 木曾大桑村 (1 ♀); 岐阜県: 宮川村 (2 ♂♂); 奈良県: 大台ヶ原 (1 ♀)。

分布: 日本 (北海道, 本州, 四国<sup>4)</sup>)。

本種は北海道から中部地方中央部までの採集例が多く, 関東地方では比較的山地に分布している。近畿地方からは僅かに大台ヶ原 (1 ♀) の1例しか検していない。四国からの記録はあるが, 標本は未見である。

沢田 (1965: 15) (前出) も指摘しているように本種とヨーロッパに広い分布域をもつ *P. (P.) carbonarius* (GYLLENHAL) とは外部形態及び♂交尾器とも大変良く似ている。今回ヨーロッパ産との比較を行ったが明確な区別点を見出すことはできなかった。今後もう少し資料をふやし, タイプ標本等も調査したうえで結論を出す必要があるが, ここでは従来の処置に従っておく。

本州中部山岳地帯 (島々谷, 中房, 北沢峠, 大樺沢) には♂交尾器が *pseudojaponicus* に似ていて, 若干小型 (10mm前後) で頭胸部の光沢の強い未記載種がいる。

## 3 *Philonthus (Philonthus) addendus* SHARP, 1867

模式産地: スコットランド。

検視標本: 7 頭 (4 ♂♂, 3 ♀♀)。

北海道: 斜里岳 (1 ♂), 14. viii. 1962, K. IGUCHI 採集; 黒岳 (3 ♂♂, 3 ♀♀), 1500-1984 m, 26. vi~vii 中旬, 1978, 保田信紀採集。

分布: 日本 (北海道 [新分布], 本州); 東シベリア, 中央及び北ヨーロッパ。

本種は1880年6月と1881年7月に日光から得られた2頭の標本に基づいて, D. SHARP (1889, *Ann. Mag. nat. Hist.*, (6) 3: 35) が本邦から初めて記録した種である。SHARP はその報告の中にヨーロッパ産のものと比較してほとんど相異はないが, 細部については完全に一致しないとして *Philonthus addendus* var. として取り扱っている。今回北海道産の標本とヨーロッパ産の標本とを比較検討したが外部形態や♂交尾器などに顕著な違いは認められなかった。しかし, 本州産の標本は未見で, 日光周辺 (日光湯元, 戦場ヶ原, 金精峠, 丸沼) から得られた33頭 (16 ♂♂, 17 ♀♀) はすべて *pseudojaponicus* であった。

- 1) 河野 (1936), *Biogeographica*, 1: 81 による。
- 2) 中根・沢田 (6190), 京都府立大学学術報告, 3 (2): 123 による。
- 3) 金昌煥 (1978), 韓国昆虫分布図鑑, 第2篇 (甲虫編): 49 による。
- 4) 吉田 (1971), 剣山県民の森総合学術報告書 p. 154 による。



図 25 クロコガシラヘネカクシ種群の分布：▲*Philonthus (Philonthus) japonicus* SHARP；  
●*P. (P.) pseudojaponicus* BERNHAUER；○*P. (P.) addendus* SHARP.

未筆ながら、常日頃懇篤な指導をいただいている東京農業大学昆藤研究室渡辺泰明氏に深謝の意を表す。また、ヨーロッパ産の標本を御恵送下された大英博物館 P. M. HAMMOND 氏、日本産の標本を提供して下さった郷 遠、笠原須磨生、黒佐和義、

松本俊信、水沢清行、斎藤秀生、鈴木 互、高須明子、保田信紀の諸氏、ならびに全形図と部分図の一部を用意して下さった吉谷昭憲氏に心から御礼申し上げる。

(東京都町田市)

○ホソクロナガタムシの分布記録

黒沢 (1974) の解説によれば、ホソクロナガタムシ *Agrilus kawarai* Y. KUROSAWA は静岡、三重、奈良、兵庫、愛媛、高知の各県から採集されているが、かなり珍しい種のようなのである。筆者は下記の標本を検しており、その後の記録がなければ分布北限となるので報告する。

福井県大野市小池、1頭、31. v. 1977、内麻恵子採集、佐々治保存。

貴重な標本を御恵与下さった内麻恵子さん (現姓松村) にお礼申し上げます。

(福井大学教育学部 佐々治寛之)

## ○マグソクワガタの採集と飼育

## I 採集記録

*Nicagus japonicus* NAGEL. 1927

採集地：秋田県山本郡八森町真瀬。

採集月日：1981年6月14日。

採集個体数：♂♂約70頭，♀♀7頭。

採集者：藤岡昌介，佐藤福男，野呂田稔。

## II 群飛

午後1時～午後4時頃迄の間，真瀬川上流の幅4～5mの枯川原（増水時には川になる）にある朽木の回りを多数の本種が飛翔しているか，又は石の上で静止しているのを採集した。この個体はすべて♂であった。♀は朽木の下の中や，約20m位離れた林道上を飛翔していた。♀の個体は少なくとも♂10♀1位の割合であった。下流の川原の石の上にも数頭の♂が静止していた。本種の生態は山地の川原に関係があるものと思われる。

## III 飼育状態

飼育箱に砂と枯葉と朽木を入れ，♂10頭♀7頭を飼育してみて次の事を知る事が出来た。

- 1). 日中日が照っている間は盛んに飛翔しているか，枯葉上で静止している。
- 2). 夜は砂の中に深く潜っている。
- 3). 交尾をはげしく繰返す。
- 4). 摂餌については，脱脂綿に浸した砂糖水，生肉，メロン，ベレットを試みたが，すべて食餌しなかった。
- 5). 8月15日に飼育箱を開けたら，♂3頭♀7頭が砂の中より出て来た。62日間の生存が認められた。なお卵や幼虫は見られなかった。

## IV 秋田県内の他の採集地

秋田市務沢，25. v. 1980，1♀，佐藤福男採集。

上記の個体も山地の川原の側であった。

## V おわりに

餌料不明の為に飼育を途中でやめた事を残念に思い，私の未熟さを痛感すると同時に今後の機会に満足できる結果にしたいと思う。

末筆ながら佐藤福男氏，野呂田稔氏に深く感謝の意を表したい。（秋田市 藤岡昌介）

## ○ミヤマチビシテムシ剣山に産す

81年11月に行われた日本鞘翅目学会総会と本会の合同例会の折に，笠原須磨生氏より同氏が採集された若干のチビシテムシの恵与を受けた。その内1頭がミヤマチビシテムシ *Catops sparsepunctatus* JEANNEL であったが，本種は上翅に白濁光沢がなく，雄前脛節内縁は中央部から拡がり，触角第8節は小さく短い等の点で外形的にも他の本邦産 *Catops* 属の種と区別するのは比較的容易である。原色昆虫大図鑑Ⅱの分布は，本州（中央山岳地帯）となっているが，日光（原産地），尾瀬，白馬，上高地，常念岳が産地として知られている。しかし四国からは「剣山・県民の森総合学術調査報告書」の「剣山とその周辺の甲虫」（吉田正隆他，1971）にも記録がなく

未知であったと思われるので報告しておきたい。

1♂，徳島県剣山西島，27. viii. 1978，笠原須磨生採集。

貴重な標本を提供され，発表を許された笠原須磨生氏に厚くお礼申しあげる。

（神奈川県綾瀬市 西川正明）

## ○アシミゾヒメヒラタゴミムシの分布

*Europhilus* 亜属の種類は日本から7種が知られそれらは互いによく似ている。しかしその中でアシミゾヒメヒラタゴミムシ *Agonum thoreyi nipponicum* HABU は附節背面の中央にも1縦溝を有する事により他の種類とは識別しやすい。本種は北海道や東北地方では普通にみられるが，関東地方では稀なようで渡良瀬遊水池のほか最近笠原により千葉県夷隅郡岬町から記録されているにすぎない。また茨城県取手でも採集されているという。

秋山黄洋氏は茨城県水海道市で採集されているので筆者の手元にある千葉県市川市の記録とあわせてここに報告しておく。

1♂，1. viii. 1980；1♀，25. vii. 1981，茨城県水海道市内守谷町，秋山黄洋採集。

1♂，2. ix. 1971，千葉県市川市菅野，筆者採集。貴重な標本を恵与下さった秋山黄洋氏に厚く御礼申し上げる。（東京都港区 森田誠司）

## ○千葉県小櫃川のキバナガミズギワゴミムシ類

キバナガミズギワゴミムシ類は，これまでに日本から7種が知られている。このグループの種類は頭部が大きく，長い大腮を具え，上翅は両側がほぼ平行であるため他のミズギワゴミムシ類との区別は容易である。生態的にも特異で満潮時には水中に没してしまうような河口附近やサンゴ礁などの石下にみられる。従ってその採集も干潮の前後に石起こしをする方法がとられている。また後翅の発達した種類では燈火に飛来する事が知られている。ところでこの仲間が同じ場所に2種生息する事は今までよく知られていたが今回報告する千葉県小櫃川のように3種が同所的に生息する例は他になく非常に興味深いと思われる。

1. *Bembidion (Desarmatocillenus) yokohamae* (BATES) キバナガミズギワゴミムシ

1頭，15. vi. 1977，笠原須磨生採集；53頭，13. x. 1980，笠原須磨生採集；11頭，26. vi. 1978，筆者採集。

2. *B. (D.) aestuarii* (S. UENO et HABU)

キバネキバナガミズギワゴミムシ

2頭，24. iv. 1978，筆者採集；24頭，18. vi. 1978，笠原須磨生採集；20頭，26. vi. 1978，筆者採集。

3. *B. (D.) sumaoi* MORITA

オオキバナガミズギワゴミムシ（新称）

2頭，26. vi. 1978，筆者採集。

末筆ながら種々御教示下さった上野俊一博士，および発表する機会を与えられた笠原須磨生氏に深謝する。（東京都港区 森田誠司）

## 日本産ヒゲナガゾウムシ科覚え書 (I)

妹尾俊男

## (1) 対馬産オノヒゲヒゲナガゾウムシ属に就いて

現在まで、対馬から記録された *Dendrotrogus* 属の種としては、MORIMOTO (1979) により、竜良山から採集された標本に基づいて記載された *D. nagaoui* のみであった。しかしながら、筆者は最近、国立科学博物館の黒沢良彦博士の御好意により、同館に所蔵されている対馬産標本の中に、対馬から未記録の *D. japonicus* MORIMOTO, 1979, を見出したので、同時に検視することが出来た *D. nagaoui* の採集記録をも含めて報告したい。

1. *Dendrotrogus japonicus* MORIMOTO, 1979 (写真: A)

1 頭, 上対馬御岳, 16. vii. 1969, 宮本正一採集。

本種の模式産地である屋久島から採集された個体には、前背板中央に逆U字形の広い凹陷が認められるが、上記の対馬産個体はその凹陷が弱く不明瞭であり、また脛節後半に褐色毛による環帯を有する等屋久島産の個体とは形態的に若干の差異が認められる。

2. *Dendrotrogus nagaoui* MORIMOTO, 1979 (写真: B)

1 頭, 下対馬内山林道, 11. vii. 1969, 黒沢良彦採集; 1 頭, 上対馬目保呂, 14. vii. 1969, 宮本正一採集; 1 頭, 目保呂, 15. vii. 1969, 黒沢良彦採集; 2 頭, 目保呂, 15. vii. 1969, 宮本正一採集。

本種は前種に酷似するが、前胸背隆線は雌雄共に鈍角をなすV字状を呈する等の形態的特徴により区別出来る。

なお、月刊むし社から刊行された「対馬特集号 (117): 1980」で、白水および中根のそれぞれは対馬の昆虫相の特異性を論じた中で、本種を同島特産種の一つとして挙げているが、その後本種の産地として福岡県宗像郡城山が、城戸 (1980) によって記

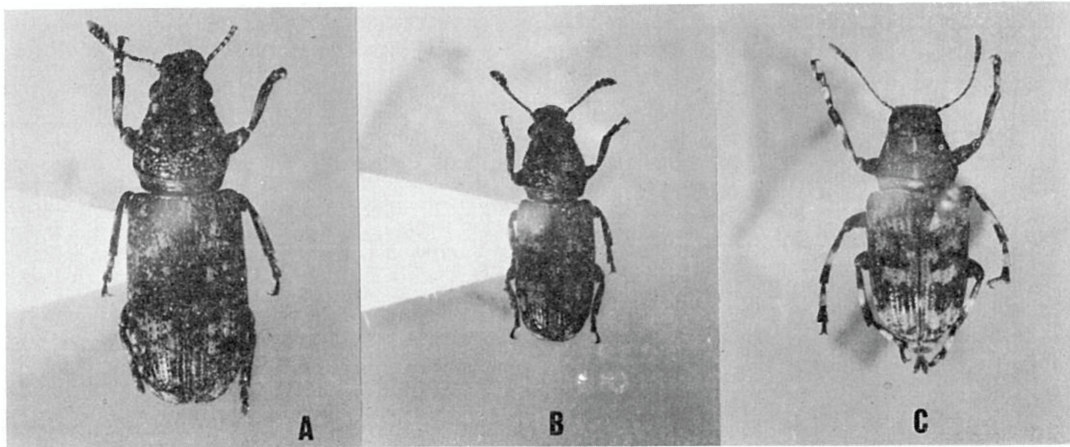
録されている。

また本属の1種 *D. ohkurai* SHIBATA, 1978, は小笠原諸島にのみ分布しているが、同様に同諸島の固有種で、MORIMOTO (1978) によって記載された、族の異なる *Euparius boninensis* および *Basitropis seinoi* の両種と色彩、毛斑が酷似し、*Dendrotrogus* 属中の他の種からは著しく異なっていることが、日本昆虫学会第38回大会で森本 (1978) によって指摘されている。

*Dendrotrogus* 属は *D. fallax* を模式種として JEKEL (1855) によって創設されたが、どういう訳か模式種の *D. fallax* の記載が存在していない。その為、米国の VALENTINE は 1972 年に、JEKEL が本属を創設した際に JEKEL 自身が記載した *D. hypocrita* を本属の模式種として指定した。本属に含まれる種はいずれも触角の形状が斧形を呈する特徴を有するので、オノヒゲヒゲナガゾウムシ属なる和名を提唱したい。本属はインドシナを分布の中心として繁栄しているが、日本には上述の3種が発見されている。

(2) 北海道から *Acorynus* 属の記録

*Acorynus* 属はヒゲナガゾウムシ科の中で最も大きな群の一つであり、それらの種の多くは東南アジアを中心に分布し、また一部は中央アフリカに分布している。日本には、最近 MORIMOTO (1980) によって沖縄から記載された *A. okinawanus* を含めて5種類分布しているが、*A. latirostris* チャマダラヒゲナガゾウムシを除く4種は九州以南に分布域をもっている。例外として、その中の *A. asanoi* サビマダラヒゲナガゾウムシは奄美大島、屋久島、鹿児島、対馬等の西南日本に分布しているが、本州本土および四国を飛び越して伊豆諸島御蔵島からも発見されている。従来、日本産本属中ではチャマダラヒゲナガゾウムシが最も広い分布域をもっているこ



とが知られ、北限は東北地方であると考えられていた。しかしながら最近筆者は国立科学博物館に所蔵されている標本の中に北海道産の本種を見出した。T. Sōsa 採集の個体以外の4個体は、いずれも河野コレクションである。

*Acorynus latirostris* (SHARP, 1891) チャマダラヒゲナガゾウムシ(写真:C)

1頭、野幌, 10. vi. 1928, 河野広道採集; 1頭、札幌円山, 12. vi. 1934, Y. SUGIHARA 採集; 2頭、札幌, 25. v. 1942, 河野広道採集; 1頭、札幌円山, 25. viii. 1950, T. Sōsa 採集。

本種は Sharp (1891) によって記載された時には *Tropideres* 属に含められたが、後に、SHIBATA (1963) によって *Acorynus* 属に移された。

(3) *Plintheria variolosa* の福島県からの記録

*Plintheria variolosa* は奄美大島から採集された個体を完模式標本にして SHIBATA (1969) によって記載された種である。従来の分布域として、鹿児島、対馬、屋久島、トカラ中之島および奄美大島等の西南日本から記録されているが、筆者は下村 徹氏より御恵与を受けた福島県産の本種を検する機会に恵まれたので分布資料として記録しておく。

1頭、福島県松枝岐, 11. vi. 1974, 下村 徹採集。

本種は、口吻は長く中央でくびれ、その両側に2本の明瞭な縦隆線を有する等により特徴づけられる。

末筆ながら、いつも有益な御助言を下さり、また本報の発表を許された国立科学博物館の黒沢良彦博士、ならびに常日頃御指導を賜わっている東京農業大学の渡辺泰明助教授、また常々貴重な資料を提供して下さる下村 徹氏の方々に深く感謝申し上げます。(東京農大)

#### ○ミヤジマコガネヒラタコメツキの記録

ミヤジマコガネヒラタコメツキ *Selatosomus* (*Aphostistus*) *miyajimanus* ŌHIRA は、小阪敏和氏が広島県宮島で採集(1970年6月29日)した1雄に基づいて、大平仁夫博士(1971年, 昆虫, 39: 39-40, fig. 1 A & 2 B) によって記載された種類である。コガネヒラタコメツキに似て美麗で顕著な種であるが、記載以後の記録はあまりなく、渡辺昭彦氏(1977年, すずむし, 114: 8-9)の岡山県の高松及び臥牛山の記録, 3雄1雌があるにすぎない。筆者は最近、岡山県から新たに4頭検することが出来たのでここに報告しておく。

2頭、岡山県備中高松, 1. v. 1975, 田尾美野留採集; 2頭、岡山県備中高松, 4. v. 1975, 木村欣二採集。

本種は、京都府以北に分布するコガネヒラタコメツキ *S. (A.) puncticollis* MOTSCHULSKY, 1866 に良く似るが、体は 11 mm 前後と小型であること、前胸背板の点刻はより細かく粗で、強い光沢を有することによって区別することが出来る。

終りに、貴重な標本をご恵与下された、木村欣二、田尾美野留の両氏に心より感謝する。

(東京農大 鈴木 互)

#### ○神奈川県丹沢のゴミムシ

神奈川県丹沢のゴミムシに関しては、神奈川県昆虫調査報告書に詳しくまとめられたが、その中に記録のないゴミムシをここに報告しておきたい。

1. *Bembidion* (*Peryphus*) *echigonum* HABU et BABA

1♂2♀♀, 20. viii. 1971, 幽神, 筆者採集。

2. *Pterostichus* (*Eosteropus*) *karasawai* TANAKA

1♂1♀, 2. xi. 1974, 檜洞丸, 井村有希採集

同報告書の中にある白ヶ岳の *Pt. prolongatus* の記録は、おそらく本種のことであろう。

なおこれ以外に *Allotriops hoplites* BATES と思われる標本がある。しかし日光附近の標本と若干の相違がみられるので種名の確定は保留しておきたい。

(東京都港区 森田誠司)

#### 甲虫談話会

会費(一カ年)2000円、次号は3月31日発行予定。

投稿メ切は2月28日。

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話(364)2311, 振替東京0-60664

昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5号(各号100本180円)

なお、有頭針00号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

電話(03)409-6401(ムシは一ばん)

振替東京21129

志賀昆虫普及社

タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,500, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3個以下¥1,300, 4個以上¥850(以下同様), 第2地帯¥1,500, ¥950, 第3地帯¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥160)

タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島2-212-25

電話(03)811-4547, 振替6-113479